

三菱UFJニコス、“商店街”のキャッシュレス化を加速

自由が丘商店街約600店にクラウド型マルチ決済システム「J-Mups」導入！

～クレジットカード、銀聯、交通系電子マネー、ポイントサービス等をセットで提供、9月20日から順次～

三菱UFJニコスはこの度、自由が丘商店街振興組合（東京都目黒区、理事長：岡田一弥）と組み、自由が丘商店街の約600店舗にクラウド型マルチ決済システム「J-Mups（ジェイマップス）」を導入し、クレジットカード・銀聯・交通系電子マネー・ジェイデビット（J-Debit）の決済と、東京急行電鉄株式会社（以下東急電鉄）のポイント制度「TOKYUポイントサービス」が同一の端末で処理できるサービスを9月20日から順次開始し、来春の導入完了を目指します。

同振興組合は12の商店街と約1,300軒の会員店舗を束ねる、国内最大の商店街振興組合。乗降客数が1日平均15万人に上る東急電鉄自由が丘駅を囲むように、魅力ある街づくりや商業振興、地域住民との連携や情報発信に注力しています。

同振興組合では、これまで会員店舗を包括してクレジットカードとジェイデビットを取り扱ってきましたが、電子マネーなどのキャッシュレス決済のニーズや、訪日外国人向けの快適なショッピング環境の整備に着目し、今般「J-Mups」導入を決めたもの。これにより、クレジットカードに加え銀聯が全対象店舗で取り扱い可能となり、さらに交通系電子マネー、ジェイデビットも簡便に追加できるようになるものです。

また、今回の導入の大きな特長は、同振興組合の会員店舗で9月20日から取り扱いスタートとなる「TOKYUポイントサービス」（詳細別紙）も、「J-Mups」の同一端末で提供可能にしたこと。即ち、東急グループの商業施設などで幅広く貯め、使える同ポイントが、同振興組合の会員店舗でも利用できるようになるものです。

なお「J-Mups」は、専用のコンピューターサーバーに各決済機能を集約し、加盟店に設置の決済端末やPOSからインターネット経由で利用（決済）できる仕組み。加盟店が新たな電子マネーや販売促進サービス（ポイント制度等）を導入する際、簡便・迅速に低コストで対応が可能となるほか、訪日外国人の利便性向上に一役買う仕様となっています。

当社は、今後も安全・安心・快適なキャッシュレス化の環境整備に向け、今般の自由が丘商店街振興組合との提携を第一弾に、全国の商店街への「J-Mups」導入を推し進め、商店街活性化を盛り上げていきたいと考えているものです。

以上

<参考資料>

■ クラウド型マルチ決済システム「J-Mups」の主な特徴

- ① 拡張性: 電子マネー(交通系・iD・QUICPay・楽天Edy・WAON)・クレジットカード・銀聯カード・ジェイデビット(J-Debit)といった決済サービスに1台で対応でき、加盟店独自のポイントプログラムやクーポン等のサービス機能も搭載可能。外貨建てカード決済にも対応。
- ② 低価格: 決済端末、非接触型リーダーライターともに従来に比べ低価格。インターネット回線を利用して接続することで、通信コストの削減も実現。
- ③ 高セキュリティ: 端末側にセンシティブ情報を残さない安全性に優れた設計。PCI-DSSに準拠。
- ④ 高速処理: クレジットカードの処理速度が1~2秒(一般的なアナログ回線の場合10~20秒)

<J-Mups(イメージ)>



■ 「TOKYUポイントサービス」

- ✓ 東急グループをはじめ、TOKYUポイント加盟店で貯まるポイントです。
- ✓ さらに、TOKYUポイント加盟店以外でも、毎月のクレジットカードのご利用額に応じてTOKYUポイント(クレジットポイント)が貯まります。
- ✓ 貯まったポイントは、1ポイント=1円分として、TOKYUポイント加盟店で使え、PASMOにチャージして電車やバスに乗ることもできます。

<対象カード>

TOP&ClubQ JMBカード／TOP&ClubQカード／各種TOP&カード／
JALカード TOP&ClubQカード／
スーパーICカード TOP&PASMO 三菱東京UFJ-VISAカード／
ANA TOP&ClubQ PASMO マスターカード／
TOP& 現金専用カード (自由が丘商店街では利用できません)

以上